

環境教育プログラムの開発に関する実践的研究	
題目	子育てにおける保護者のスマートデバイス使用の実態把握 -首都圏と地方都市の比較-
著者	神宮文代 小野田弘士

1. 概要

子育てにおける保護者のスマートデバイス使用の実態把握について、質問紙調査(データ収集時期:2019年3月～7月)を用いて量的に把握することを試みた。

2. 2021 年度の研究成果

研究対象は、東京を中心とした首都圏(以下、首都圏)と北海道を中心とした地方都市(以下、地方都市)の未就学児の保護者、計 300 名である。単純集計結果より、「地域(首都圏と地方都市の 2 郡間)」と「スマートデバイス使用場面(自宅外)」においてクロス集計を行った。結果に対しカイ 2 乗検定を行い、5%水準以下の統計的有意差が認められたものが下記である。

図 1 より、「スマートデバイス使用場面(自宅外)」に関する 5 場面のうち、「親が手がはなせないとき」($df=3, \chi^2=8.478, p<.05$)、「家でくつろいでいるとき」($df=3, \chi^2=13.007, p<.01$)、「寝るまでの時間」($df=3, \chi^2=9.475, p<.05$) の 3 つの場面で、4 群間に有意差が認められた。

首都圏よりも地方都市の方が、自宅での上記 3 つの場面においてスマートデバイスを使用していることがわかった。首都圏よりも地方都市の方が、自宅においてよりスマートデバイスを使用していると推測された。気象条件などの環境的要因も関連している可能性はある。

自宅外におけるスマートデバイス使用場面と地域による関連については、地方都市の保護者はマイカー所持率が首都圏の保護者よりも圧倒的に高く、同一の条件において関連を調べることは叶わなかった。しかし、「スマートデバイス使用場面における自宅・自宅外の関連」において、図 2 より自宅での使用と自宅外での使用の関連は非常に強いことがわかったため、首都圏よりも地方都市の方がスマートデバイスを使用していると推測できるだろう。

「平成 29 年度全国学力・学習状況調査」において、全国の小学 6 年生を対象として、日頃のスマートデバイス使用に関する質問「普段(月曜日から金曜日)、1 日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVD を見たり、聞いたりしますか(勉強のためのテレビやビデオ・DVD を見る時間、テレビゲームをする時間は除く)」、「普段(月曜日から金曜日)、1 日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯型のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか」、「普段(月曜日から金曜日)、1 日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)」の 3 つの質問を行っている。その中で、北海

道の子どもたちは全国平均より長くスマートデバイスなどに触れていて、東京都の子どもたちは全国平均よりスマートデバイスなどに触れる時間が短いことがわかる(国立教育政策研究所「平成 29 年度全国学力・学習状況調査」, 2017)。よって、地方都市の方が、首都圏よりも未就学児の段階からスマートデバイスにも触れる機会が多いと推測される。

本研究と上記の全国調査より、これまでは首都圏の子どもたちの方がスマートデバイスに触れているというイメージが強かったが、そうではないことがわかった。システムティックな日々ゆえに子どもたちの使用時間がおのずと制限されてしまうとも考えられる一方で、首都圏の保護者がより意識的に使用を制限している可能性も考えられる。

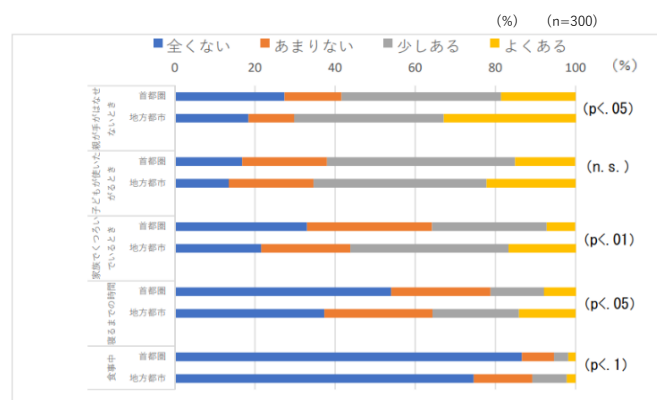


図 1 スマートデバイス使用場面(自宅外) × 地域

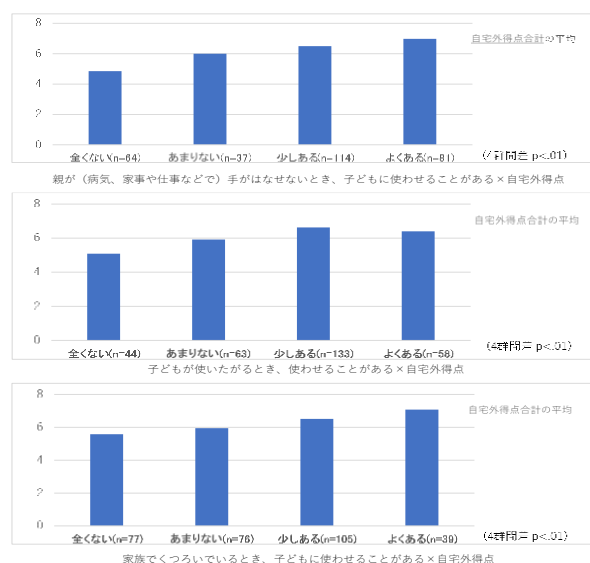


図 2 スマートデバイス使用場面における自宅・自宅外の関連

3. 成果発表等

- (1) 神宮文代:子育てにおけるスマートデバイス活用についての面接調査(2021), 第 13 回大会日本子育て学会, 50-51.
- (2) (単著) 神宮文代:保護者の意識と行動の関係から見た子育てにおけるスマートデバイスの活用方法について(2021), K&K 出版.